

来週の『売り物記事』はこれ

MAINICHI 新毎日

2019年4月19日号

毎日新聞東京本社 編集編成局・販促宣伝部

「ルワンダ・カフェ」へようこそ

虐殺生き延び、福島で被災者と交流

21日（日）



アフリカ・ルワンダ出身の永遠瑠（とわり）マリールイズさん（53）は、福島第1原発事故から仮設住宅などを訪れ、被災者と交流を続けています。温かいコーヒーを飲みながら語り合うことから「ルワンダ・カフェ」と呼ばれます。

80万人以上が殺害された25年前のルワンダ大虐殺を生き延び、家族と日本に逃れてきたマリールイズさんが「ルワンダ・カフェ」に込めた思いとは。



40年ぶりのメダルなるか

世界卓球が開幕

スポーツ面 21日（日）から



卓球の世界選手権個人戦が21日にハンガリー・ブダペストで幕を開けます。世界のトップ選手が集うため、来年に迫った東京五輪の前哨戦ともいえる大会。日本からは男子の張本智和、丹羽孝希、水谷隼、女子の石川佳純、伊藤美誠、平野美宇ら一線級が軒並み出場します。15歳の張本が1979年の小野誠治（金メダル）以来40年ぶりとなる男子シングルスのメダルを狙えば、女子のエース・伊藤はシングルス、ダブルス、混合ダブルスに出場して全日本選手権に続く3冠を目指します。熱戦を現地からリポートします。

カウントダウン企画「令和へ」

社会部 21日（日）から

平成の時代も残りわずかになりました。平成を象徴するさまざまな現場を舞台に、ひとつの時代の幕が閉じる日までをカウントダウンしつつ振り返り、令和の時代を展望する同時進行ドキュメントを朝刊1面に掲載します。取り上げる舞台は群馬・八ツ場ダム、福島・大熊町、大阪・西成、東京・渋谷などです。30日（火）まで計10回です。

私の胸のうち テーマ「デビュー」

サラダぼうる面 21日（日）

さまざまな「デビュー」の経験をお寄せいただきました。「染めないのは横着だ」と息子に言われ、白髪を染めた女性に対する当の息子の反応。ラジオ体操を始めた91歳の女性の生きがい。

ガラケー（従来型の携帯電話）からスマートフォンに切り替えた51歳の男性は、打ち間違いに立腹し、4ヶ月たってもいまだに腫れ物扱いとか。悲喜こもごもの読者投稿を紹介します。

還暦で引退

昭和の歌姫・森昌子さん

夕刊特集ワイド 22日(月)

年内いっぱい芸能界引退を表明した歌手の森昌子さんが、全国ツアー中です。同じ世代の記者にとって「還暦」をきっかけの引退が気になり、森さんの「還暦コンサート」を見に行きました。

森さんは万感を込め「記憶に残るよう精いっぱい歌います」。その通り、鳥肌の立つ熱唱が続きました。その模様をお伝えするとともに、歌手・森昌子を発掘した「スター誕生！」の司会者・萩本欽一さんにも話を聞きました。

迷惑？ 不潔？ トイレで「こもりスマホ」

くらしナビ面 23日(火)

トイレの個室でスマートフォンを使い、用を足した後も居座る「こもりスマホ」。

住宅設備機器メーカーの調査では、大便器ブースでしたことがある用足し・身づくり以外の行為で4割が「携帯電話・スマートフォン、タブレットの使用」と回答。居座りは痔を誘発するリスクが高まり、病原微生物の感染経路になり得ると専門家は指摘します。対策を探りました。



「みんなのゴミ」

環境面 24日(水)

私たちの日々の生活とは切っても切れない関係であるごみ。しかし、捨てられた「その先」を考えることは少ない。ごみの常識やごみ行政の「矛盾」をつづる新連載。1回目は、引っ越しなどで発生する粗大ごみがテーマ。処理する自治体に一度に出せる量が決まっていることなどから、無許可の違法な業者が横行している現状を現場から報告します。

「象徴と政治」

政治部 24日(水)・25日(木)

天皇陛下の30年間に及ぶ「皇室外交」や、政治との関係を振り返ります。

陛下の外国訪問や外国首脳との面会は日本政府が仲介するため、時の政権による「天皇の政治利用だ」との懸念が出る局面もありました。終戦記念日に発せられたお言葉の変遷から、時の政治情勢との関係性を指摘する声があったことなど、象徴天皇と政治の関係を振り返ります。